

# 十勝空襲と敗戦

国際理解

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展そして未来へ

用語

さくいん



日中戦争が始まり、昭和12年(1937)、出征する兵士たち。池田神社(池田町)で武運長久(3)を祈る。(写真:『池田町懐かしのアルバム』より)



(右)アツ島に上陸した日本軍守備隊。昭和18年(1943)、全めつした。



(写真:『池田町懐かしのアルバム』より)



昭和21年(1946)発行の地形図。利別川の新水路工事が途中で止まっている。

(国土院蔵の1/5万地形図(十勝池田)使用)

統内新水路( p 190)が通水した昭和12年(1937)、日中戦争が始まりました。戦争は長期にわたります。

昭和15~16年(1941~42)、日本軍はフランス領インドシナ(ベトナム)へ侵攻します。

昭和16年(1942)、日本はアメリカ・イギリスに宣戦布告して太平洋戦争が始まります。戦線は、東南アジアからオーストラリアまで広がりました。

昭和17年(1942)以降、日本軍は南方の戦いに負けることが多くなります。昭和18年(1943)には、北方のアツ島(アリューシャン列島)で守備隊が全めつします。

北の強化のため、昭和19年(1944)、帯広の第7師団(熊部隊)など、十勝各地にも日本軍部隊が駐屯します。

昭和20年(1945)、東京空襲などの本土空襲、沖縄での地上戦、広島・長崎への原爆投下、ソ連の対日参戦などを受け、他国民もふくめて数百万~2千万人以上ともいわれる戦争犠牲者を出した末に、日本は降伏しました。

## 戦争によって止まった河川工事

十勝川に続いて、利別川でも新水路をほって、統内新水路につなげる計画でした。

工事は昭和12年(1937)に始まりました。しかし、戦争が長引き、激しくなる中で、昭和18年(1943)には工事が中断されてしまいました。( p 206)

工事用の機械や機関車は、中標津の飛行場建設などのために持っていけませんでした。

工事の再開は、敗戦後の昭和25年(1950)を待たねばなりませんでした。

## 十勝空襲

十勝からも多くの人が戦場に行き、傷つき、戦死しました。帯広市史の戦没者名簿だけで、1,465名もの方が載っています。

戦火は十勝にもやってきます。昭和20年(1945)7月14日と15日、アメリカ軍の飛行機が十勝各地をおそいました。

14日には、池田町・豊頃村・帯広市・音更村・幕別村が、15日には、本別町・帯広市・音更村・大樹村・大津村(厚内)・浦幌村・広尾村・土幌村・幕別村・大正村(上更別)が、空襲を受け、60名が死亡しました。

とくに、本別での空襲は激しいものでした。およそ50分間、40機以上による爆弾・機銃などの攻撃を受け、亡くなった人40名(うち女性23名)、けがをした人14名、全焼した家279戸、罹災した人1,915名という、大きな被害が出ました。



空襲を受け、炎上する本別市街。このけむりの下で、40人もの方が死んでいった。(写真:2枚とも本別町歴史民俗資料館蔵)

4 本別での空襲(ほんべつでのくうしゅう): 本別を空襲したアメリカ軍機の攻撃隊は、帯広など別の攻撃目標を持って空母から飛び立ったが、当日十勝が雲におおわれ目標を見つけれなかった。その後、たまたま雲の切れ間の下に本別があったため、各攻撃隊

の隊長判断で攻撃を決めたという。本別とは思わず、池田だと思って攻撃した攻撃隊もあったらしい。(参考:『記録本別空襲(本別町図書館、1983)』、「トカッチ16号(2004)」の『アメリカ海軍資料に見る北海道空襲(松本尚志)』)